



## PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（第 21 回）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2024 年 4 月 21 日（日）10:00-11:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：5 名（ディベータ 3 名、ジャッジ 1 名、見学 1 名）

### ディベートの様子

今月のキーノートディベートの論題は、“**Origami should be compulsory education. (折り紙を義務教育とすべきである。)**” でした。

肯定側は折り紙という日本の文化を考慮して、論題の適応範囲を日本とした上で、折り紙に触れる機会が減ってきているという背景や、文化に触れる重要性について主張しました。対する否定側は祖父母など折り紙を教えてくれる存在はいるということや、他に学習しなければならない重要なことがたくさんあると説明しました。

美術や図工の中に折り紙に取り組む時間を作るというセットアップでディベートを進めていた肯定側は、「美術はよくて折り紙はダメな理由は何か」という鋭い指摘をしつつ、その重要性を主張しましたが、否定側も一貫して既存の教育内容の重要性を主張しました。

ディベート後、キーノートスピーカの北海道大学大学院教育推進機構・准教授の繁富（栗林）香織氏より、例えばインターナショナルなケースを考えてみるとどうだろうか、折り紙を人々がイメージする正方形の折り紙だけではなく、「紙を折ること全て」だと定義した上でより広い取り組みに活用できないか考えてみるのはどうかとフィードバックをいただきました。そしてジャッジより勝敗やその説明、ベストディベータ、ベスト POI の発表が行われました。



ディベートの様子

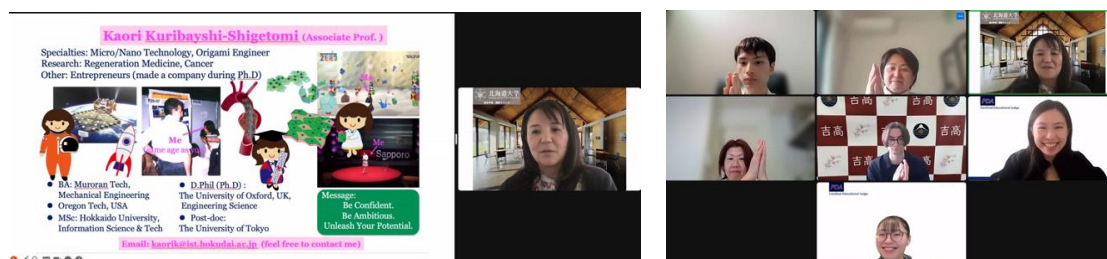
キーノートレクチャーでは、北海道大学大学院教育推進機構・准教授の繁富（栗林）香織氏にご登壇いただき、論題についてご解説いただきました。

おりがみを活用したサービスや技術の紹介にはじまり、おりがみの特徴や逆再生のようにおりがみが戻る仕組み（リバースおりがみ）を再生医療に活用している最先端の研究などについてご紹介いただき、教育現場におけるおりがみで頭がいっぱいになっていた参加者はその幅広い活用に刮目しました。



### キーノートスピーカの紹介

質疑応答では、繁富（栗林）香織氏の関心の出発点についてや、教育現場での活用方法など様々な観点から質問が行われました。創造性というものは完全に0（ゼロ）の状態から何かを生み出すということは稀であり、多くの場合何かと何かの掛け算で生まれる、それがおりがみだと実現できるというメッセージが伝えられ、これからの社会を生き抜いていく上で英語力や論理的思考力と同様に重要となる創造力をどのように養っていくことができるのかについてヒントを得る機会となりました。



### キーノートレクチャーの様子

### 参加者の声（アンケートより抜粋）

- おりがみの新たな可能性について知ることができたとても有意義なレクチャーでした。ディベートも楽しかったです。ありがとうございました。
- **Origami** と折り紙は全くことなるものなのだと学びました。ありがとうございました！
- おりがみについてあまり考えたことがなかったが、多くの技術に転用されていることが分かって面白かったです。
- おりがみを使って創造力を磨く方法について詳しく知ることができました。教育現場ですぐ実践できる方法について知ることができたのも大変ためになりました。また、おりがみが再生医療など想像を超えた広い範囲で活用されているということに驚きました。ありがとうございました。